



瑞巖寺五大堂



陽徳院霊屋



圓通院霊屋

(5) 仙台藩伊達家に関わる文化遺産群

伊達家の菩提寺として庇護を受けた瑞巖寺は、数多くの末寺を持ち、その信仰を周辺で展開させていく。特に扇谷の達磨堂、富山の大神堂、多聞山の毘沙門堂などは、後に四大観と呼ばれる代表的な展望地点となる。

また、松島には藩主や幕府役人の巡見等の宿泊及び接待用の施設としての御仮屋御殿が複数設置され、遊覧の地としても広く知られるようになった。

第3-11表 仙台藩伊達家に関わる文化遺産群の構成

富山大仰寺本堂・富山観音堂・富山仁王門【町有形】、梵鐘【県有形】	松島町	手樽字三浦	奥州三観音の一つで、伊達政宗の息女五郎八姫が明暦3年(1657)に早山弥五郎実次につくらせたと伝わる。本堂は18世紀後半から19世紀初頭頃の建築とみられ、6間取りの方丈。仁王門は正面両脇間に納められた仁王像に享保8年(1723)の胎内銘があり、元禄から享保ころの建築とみられる。桁行三間、梁間三間、一重、向拝一間、棧瓦葺の宝形造。梵鐘は五郎八姫が寄贈したもの。
帰命院		高城字帰命院下一	浄土宗の寺院。慶長10年(1605)開創。寺伝によると伊達政宗の家臣山岡志摩が念仏庵を営んだことに始まる。元禄8年(1695)、瑞巖寺101世鵬雲東博禅師により造営され、中央に聖徳太子、左に達磨像、右に鵬雲像を安置した。
扇谷 達磨堂		松島字桜岡入	もとは瑞巖寺東側に住んでいた水主衆の民家。文化年間(1804-1818)の建築。水主衆は船舶運用・船手入れのほか、湾内の取締りや藩主・賓客の松島遊覧の際の操船も行った。
水主町の民家【町有形】		松島字町内	正保から慶安年間(1645-1652)以降の建築で、伊達家の御仮屋御殿として藩主の松島遊覧や、幕府巡見使等の諸国巡回の際の宿泊・接待に利用され、藩主の納涼、観月の亭として「月見御殿」とも呼ばれた。建物は桁行八間半、梁間五間でこけら葺の寄棟造。内部は18畳2室で、四方縁をめぐらす。床の間の張付絵や襖絵は壮麗な極彩色で画かれている。
観瀾亭【県有形】		松島字町内	現建物は江戸期の建造とみられる。33年に一度、毘沙門天が開帳される。
多聞山 毘沙門堂	七ヶ浜町	代ヶ崎浜字八ヶ森	伊達家の遊覧地として仮館があったとされる。突端に荒崎稲荷神社がある。
鴻ヶ崎(御殿崎)		松ヶ浜字浜屋敷	



富山観音堂



観瀾亭



多間山 毘沙門堂

(6) 廻船・航海・街道関係遺産群

江戸時代には、海路を中心に仙台北下と海運の拠点港がある石巻とを繋ぐ石巻街道が発達した。この街道には「松島海道」と呼ばれる塩釜港から石巻港の間をつなぐ航路があり、塩竈から松島に渡った松尾芭蕉も利用したと考えられている。さらに、浦戸諸島寒風沢島や磯崎、宮戸島には、北上川から仙台や江戸への廻米中継地として御米蔵が置かれ、船員・商人が泊まる旅館や休憩所が設けられた。また、外国船警備の唐船番所や、これらを管理する仙台藩役人の詰所も設置され、周辺は賑わいを見せたと伝わる。松島湾には廻漕業を興した白石廣造邸宅跡など航海関係のものが各地に残り、その歴史がうかがえる。

海路以外にも、奥州街道の枝線である浜街道に属する松島は、高城・手樽・涌谷・石巻街道の分岐点となっており、現在の町割りにも名残りがみられる。街道は鹽竈神社や金華山参りなどの多くの人々が往来したとされ、瑞巖寺門前町をはじめとした街道筋では焼きハゼなどの魚介類、印鑑に使用する福浦島の竹、せっこう、こうれんせんべいなどの土産物が売られ、賑わいを見せたと伝えられている。

第3-12表 廻船・航海・街道関係遺産群の構成

福浦島弁天社	松島町	福浦島	海上安全を願って勧請された。元は磯崎筒場の弁天島に所在していたが、昭和11年(1936)に移された。
庚申塔		高城字迎山	松島高校裏手の石巻街道法華越にある江戸時代の碑群。
大浜唐船番所跡	東松島市	宮戸字大浜	海岸防備のため設置された外国船見張番所で、仙台藩に5ヶ所ある番所の1つ。監視所は萱野崎の山上に置かれ、その西側中腹に足軽詰所があった。
多十郎の墓碑【市有形】・儀兵衛・多十郎記念碑の丘		宮戸字宮戸	墓碑は観音寺内にある。多十郎は、宮戸島出身の儀兵衛と共に難破漂流し、帰国するまでに日本人で初めて世界一周をした。記念碑の丘は、室浜地区東側の高台にある。日本人最初の周航者としての2人の名を刻んだ記念碑が建立されている。
桂島の雨降石	塩竈市	浦戸桂島石浜山神	桂島東端の眺望の地。航海の日和見をした場所で、巨石が3個ある。最大で笠型のを雨降石と称し、この石を叩くと雨が降るとされている。
白石廣造邸宅跡		浦戸石浜	白石廣造の邸宅跡。廣造は明治4年(1871)に北海道や三陸各港を結んで廻漕業を興したのをはじめとし、数々の事業に着手した。開成丸・権現丸・洪栄丸の三帆船で遠洋漁業(ラッコ・オットセイ漁)を興した企業家である。
寒風沢の日和山		浦戸寒風沢	藩政時代に船頭が日和見をした外洋を望む丘陵。
しばり地蔵		浦戸寒風沢日河山	日河山山頂にある。日河山は航海者が天候を見た山で、地蔵には女性が航海者の出港をとりやめる祈願として荒縄を巻く風習があった。
十二支方角石		浦戸寒風沢	日河山山頂上に幕府の木村又衛正信が設置した石造方位標。天保12年(1841)の設置。

延命地蔵菩薩	塩竈市	浦戸寒風沢	もとは観音堂参道にあった地蔵像を明治37年(1904)に聖観音像とともに遷座したもの。地蔵像は享保年間(1716-1735)に江戸で作られ、千石船でこの地へ搬送されたが、順風に恵まれて一日一夜で到着したといわれ、一夜地蔵の別名がある。
寒風沢百万遍供養碑		浦戸寒風沢	百万遍の念仏供養を記念した碑。江戸時代、寒澤寺に代々名徳の僧が住み、海上安全などの祈願をしたことを証すもの。百万遍の念仏は、現在も島民によって行われている。
幕府城米蔵跡及び仙台藩米蔵跡		浦戸寒風沢	幕府の廻船方・仙台藩の津方と脱穀改め方の役所・米蔵跡。県北部の大崎五郡の本石米、南部藩の江戸廻米は北上川を下って石巻に運ばれた後、小廻船によって寒風沢に集荷され、江戸に送られた。
鱈ヶ淵洞窟		浦戸寒風沢赤藻崎	鱈神を祀った洞窟。鱈ヶ淵水道に仮泊する船は洞窟の松樹の枝に鱈神を吊して祀り、赤飯を棧俵に供えて願った。
野々島の旧道		浦戸野々島	山中を通る旧道。基盤をえぐり込むようにして道を作る。
小豆浜	七ヶ浜町	花渕浜	小豆を積んだ船の漂着に由来した名称をもつ浜。県内有数のサーフスポット。
荒崎稻荷社・荒崎稻荷神社の媽祖画像		松ヶ浜字浜屋敷	荒崎稻荷社は江戸時代の肝入であった星家の氏神。承和4年(837)以前から奉斎されており、茨城県の大洗磯前神社から分霊した天妃神(媽祖)の画像が祀られている。媽祖は航海安全の守護神とされる女神。画像は一枚板に墨で天妃像と2人の女官が描かれている。
比翼塚	松島町	松島字町内	蜂谷掃部の子小太郎と紅蓮尼の板碑と塚。紅蓮尼は、松島名物こうれいせんべいを焼いていたと『松島諸勝記』にみえる。

(7) 幕末明治の海防遺跡群

航海の要衝であった松島湾には、幕末の異国船出現に対する海岸警備の強化によって、浦戸諸島や宮戸島を中心に多数の砲台場が設置された。また、西洋式新技術を採用した軍艦開成丸が、寒風沢島で建造されている。これらの地には砲台場跡や石碑がのこり、歴史を今に伝えている。

第3-13表 幕末明治の海防遺跡群の構成

二本松砲台場跡	東松島市	宮戸字室浜	宮戸島北端、野蒜方面に対する丘の上に位置する。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
鱸山砲台場跡		野蒜字洲崎	野蒜の不老山西方の洲崎浜に孤立する凝灰岩の丘(鱸山)にある。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
丸山砲台場跡		大塚字長浜	東名の南端に位置する標高51mの丸山にある。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
石浜崎砲台場跡	塩竈市	浦戸桂島石浜	石浜東南端の岬にあったが、現在は海蝕により島状に分離している。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
仙台藩軍艦開成丸造船場跡・寒風沢造船の碑		浦戸寒風沢	奥羽諸藩最初の軍艦(スクーター型帆走船)を造った造船場跡で、船材・銅鉄・錨・綱具・帆布などには仙台藩の国産品を用いた。安政4年(1858)8月に仙台藩の軍艦開成丸の造船を記念して、粘板岩で寒風沢造船の碑が建立された。
寒風沢砲台場跡		浦戸寒風沢	日和山に続く杉和田崎にあり、大砲3門を備え、砲座と弾薬庫跡、土居が残存している。仙台藩が安政4年(1858)に築造した。
船入島砲台場跡		浦戸船入島	大砲2門を備える。仙台藩が慶応3年(1867)に築造した。
幕府艦隊投錨地跡		石浜	戊辰戦争時に榎本武揚率いる幕府艦隊が投錨した地。石浜の船大工による修理と補給を受けている。

(8) 松島湾沿岸北部の近世以降の製塩遺跡群

江戸時代、仙台藩は領内での塩の自給自足を目指し、赤穂(兵庫県)、行徳(千葉県)より入浜式製塩の技術を導入した。松島湾でも野蒜塩田などの開発が行われ、東北地方随一の製塩地帯となっていく。現在でも、東名に残る水路網などに当時の塩田の痕跡を見ることができる。

第3-14表 松島湾沿岸北部の近世以降の製塩遺跡群の構成

高城塩田と磯崎御蔵跡	松島町	高城	高城川河口から磯崎南西部にかけて広がっていた推定30町歩(30ヘクタール)の塩田。磯崎御蔵は生産された塩を収めた藩の御蔵で、御塩方が置かれた。
亀岡塩田増墾碑	東松島市	野蒜	齋藤廉吾ほか4名の功業をたたえた碑。齋藤らは東名運河の開削に伴い農地を失った村民の救済のために、私財を投げ打って十町歩余の塩田を造墾した。
丸山と鹽竈神社跡		東名	かつては製塩に係わる東名集落の神社として丸山にあったが、震災による集落の消失で、東名集落跡へ移転した。
東名塩田跡の田地		東名	東松島市東名の塩田跡。関連として、東齋塩場碑(東名・如月庵境内)がある。
東齋塩場の碑【市有形】		大塚字東名如月庵境内	東名塩田の開発者である奈和良元直の功業をたたえた碑。

(9) 近代交通遺産群

明治維新以降、主要航路や港湾が整備され、岬には灯台が建設される。野蒜築港は、日本最初の洋式港湾として明治政府による東北地方開発の一環で行われた。港湾建設は中止となるが、野蒜に係わる施設として港口の突堤や東名運河が残る。

陸上交通では鉄道敷設が進められ、政府の支援を受けた日本鉄道会社が、東北本線上野-青森駅間を全通させる。この路線の開通により、塩釜-石巻駅間を結ぶ航路「松島海道」に東京や仙台からの鉄道が接続することになった。開業当時の東北本線は、仙台-塩竈駅間は利府町赤沼から松島町初原へ至る内陸ルートで山線と呼ばれ、その中の一駅である松島駅も明治23年(1890)に営業を始めた。

昭和2年(1927)には、宮城電気鉄道会社の仙石線が仙台-松島公園駅(現在の松島海岸駅)間で開通する。同社は松島公園駅の開業に合わせて松島遊園を開園させた。同時期には松島水族館も開業し、鉄道開通を契機として松島観光が身近なものとなった。

第3-15表 近代交通遺産群の構成

野蒜築港関連遺跡(港口突堤、東名運河)	東松島市	野蒜	明治政府による日本最初の近代的洋式港湾建設事業で、明治15年(1882)に鳴瀬川河口に突堤が完成したが、明治17年9月の台風により壊れた。第二期工事は未着手のまま廃港となる。
地藏島灯台	七ヶ浜町	地藏島	宮城県が大正9年(1920)に設置した。塩釜港に入港する船のためのものである。当初は石造であったが、東日本大震災により建て替えられた。
花淵灯台		花淵浜字保ヶ崎	昭和39年(1964)10月27日から点灯された無人灯台。白色円形のコンクリート造で、高さは20m、海面からは62.5m。
仙石線遺構(松島隧道・高城川橋梁・磯崎架道橋)	松島町	—	松島隧道は松島海岸~高城町間で昭和3年(1928)竣工。コンクリート造。橋梁と架道橋は鋼桁でコンクリート造の橋台。